

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

信金中央金庫（証券コード:8421）

【据置】

長期発行体格付	AA
格付の見通し	安定的

■格付事由

- (1) 信金中央金庫（信金中金）は信用金庫（信金）の余資運用、業務機能の補完、決済仲介などの役割を果たすとともに、経営相談や資本増強などを通じて信金業界の信用力の維持・向上に取り組む中央金融機関であり、国内有数の機関投資家でもある。格付は、資産の健全性、比較的高い資本水準、信金支援における規律ある姿勢などを反映している。
- (2) 信金からの預け金流入に伴い総資産額の増加傾向が続いている。信金の余剰資金の受入は信金中金に期待される重要な機能である一方、資金受入は信金中金の投融資にかかる金利リスク量や価格変動リスク量などを拡大させる方向に働く。長期債券についてアセットスワップを活用しデュレーションを短めに行っているものの、保有債券の規模が円貨・外貨とも大きいため、金利上昇に伴う影響が一般的な商業銀行より大きい。国内外のファンドへの投資リスクも抱えている。しかし、保有資産にかかる資金収支や評価損益へのマイナスの影響に関しては、評価損銘柄の入替や変動金利資産の組み入れなどを通じて抑制している。また、リスクアパタイト・フレームワークの運営を通じてリスク量と資本のバランスを一定の範囲内に調整することで財務の安定性を確保している。結果として適格旧 Tier2 資本などを控除した調整後の連結コア資本比率は20%台前半と高い水準が保たれている。今後、信金からの資金流入が続き、資本水準はすう勢的に低下する可能性があるものの、一定の余裕を確保している。
- (3) 与信ポートフォリオには、日銀向け預け金、日本国債、政府や大企業向けの貸出などが多く含まれるため、収益の柱である資金運用業務の利ざやは薄いのが、資金量対比でみた経費率は極めて低く、与信費用が膨らむリスクも小さい。ファンドなどへの分散投資の進展と保有有価証券の評価益の活用などにより、今後も一定の最終利益を確保していけると JCR はみている。
- (4) 信金中金の事業は信金業界の経営動向の影響を受ける。業界全体では、コア業務純益ベースで相応の収益力を確保しており、コロナ禍においても健全な財務内容を維持している。しかし、貸出業務における主要な顧客基盤は中小零細企業であり常に一定程度の与信費用が発生し得る。余資運用資産の増加などが市場部門におけるリスクテイクの拡大を促す要因にもなり得るため、損失が膨らみ、財務支援を必要とする信金が増える可能性に備えておく必要がある。信金中金では、個別信金の余資運用力の強化や業務効率化・デジタルライゼーションの促進に加え、創業や事業承継、ビジネスマッチングなどの分野で業界のネットワークを活用した課題解決システムやプラットフォームの提供を進めている。これらを各信金の安定した経営基盤の確保に結びつけることは、信金中金の経営にとっても重要である。
- (5) 独自の業界内支援制度である経営力強化制度等を通じて、個別信金に資本支援を行っている。信金業界にとって信金中金の財務の健全性を保つことは、信金中金を通じた資金仲介・決済機能や業界全体への信託を維持する観点から重要であり、資本支援は節度をもって行われている。信金中金は今後も一定の規律のもとでリスク量を抑制しつつ信金支援に取り組んでいくと JCR はみている。

(担当) 炭谷 健志・木谷 道哉

■ 格付対象

発行体：信金中央金庫

【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	AA	安定的

格付提供方針に基づくその他開示事項

- 信用格付を付与した年月日：2022年9月29日
- 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩
主任格付アナリスト：炭谷 健志
- 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
- 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「銀行等」(2021年10月1日)として掲載している。
- 格付関係者：
(発行体・債務者等) 信金中央金庫
- 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
- 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
- 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
- JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■ 留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■ NRSRO 登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■ 本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル